

2012年度地域研究コンソーシアム 共同企画講義「エスノグラフィを書く」 宮原暁・常田夕美子 (GLOCOL)

対話のチャンネルをひらく

地域研究者、人類学者、社会学者などがフィールドワークで得た知見を記述する手法としてのエスノグラフィは、*Writing Culture*以後、人々の視点をいかに表象するかという自問をくりかえしてきた。その後のエスノグラフィは、慎重さゆえの難解さや研究者の倫理に関するやや説教じみたいわけ、さもなくば書き手が自我を確立するまでの長い物語に託されたある種の開き直りを習い性とし、全体的には沈滞傾向のなかにあったと言えよう。

大阪大学グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL) が、地域研究コンソーシアム (JCAS) とともに企画した共同企画講義「エスノグラフィを書く」は、*Writing Culture* を踏まえながらも、それとは少し異なる観点から、エスノグラフィにアプローチしようとした試みである。そこでは、エスノグラフィが社会に何をもたらすのか、さらに書き手の自己変革を伴うエスノグラフィを書くことが書き手と社会の間にどのようなつながりを生み出すのかが問われる。エスノグラフィを様々な学術分野や社会的実践という観点から見直すことで、煮詰まった状況からの脱却をめざそうというのである。



第1回セミナー「エスノグラフィを書く」という問題

講師：渡邊欣雄氏 (國學院大學文学部日本文学科伝承文学専攻・教授)

第2回セミナー「エスノグラフィはどのような実験的な要素を持ち得るのか」

講師：中川敏氏 (大阪大学人間科学研究科・教授)

第3回セミナー「エスノグラフィは社会とどう向き合えるのか①」

講師：石井洋子氏 (聖心女子大学文学部・准教授)

第4回セミナー「エスノグラフィは社会とどう向き合えるのか②」

講師：伊藤泰信氏 (北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科・准教授)

椎野若菜氏 (東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所・准教授)

